

109 不明確な動作は、一切描いていない

《聖マタイの召命》

2024

真鍋友範



* 聖マタイは髭の男ではない
(同時に、左隅の若い収税吏でもない。)

1 誤解の要因

聖マタイの召命の解釈において、誤解された原因は何だったのか。それは明らかだ。

当時も現在も同じく、展示環境が悪いのだ。

【通常、正面から作品を見ることができない。】

展示環境が良くないことは、明らかだ。奥側のイエスの動作全貌が見えない。

しかし、消えないのは、カラヴァッジョは、【わざと不鮮明な動作を描いたのか】、という疑問だ。

ローマ・カトリック教会美術史家の主張する、【イエスが、不鮮明な呼び出し動作を行った為、内容がよく分からなかった髭男は、不鮮明な指差し動作で、自分呼んでいるのかと、問い返した】という、説明に、解説の説得性は皆無だ。

2 誰に責任があるのか

400年に渡り、誤った解説を世界に拡散し続けたローマ・カトリック教会には、この誤った解説是正の責任がある。

ローマ・カトリック教会は、ガリレオ・ガリレイの地動説を400年間放置したが、最近になって正式にその誤りを認めた。

これはとても重要な宣言だ。400年前の誤りは、たとえ現在において、形式的なものであっても。その訂正には大きい意義がある。

2024年現在、《聖マタイの召命》への解説是正は未だ実行されていない。

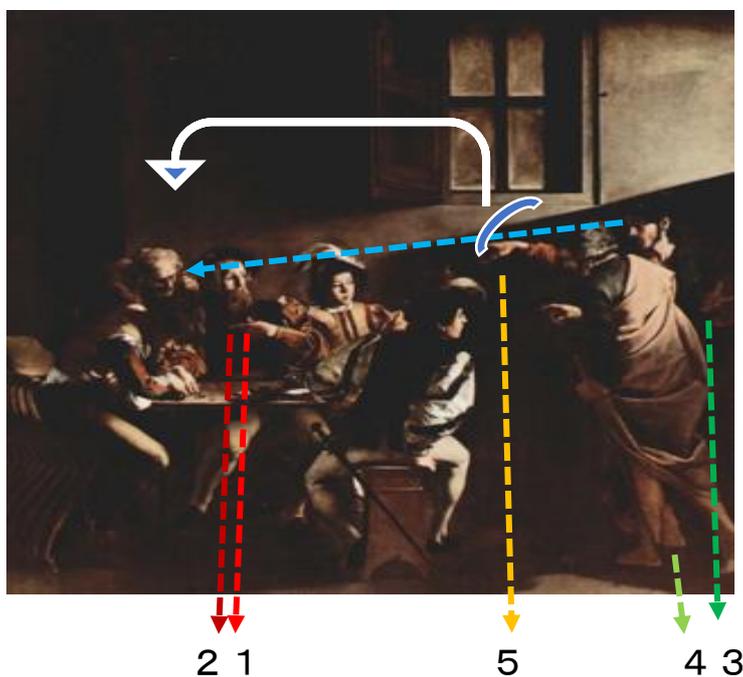
無責任よろしく、その兆候もない。

結論

ローマ・カトリック教会派美術史家は、画家カラヴァッジョに対し、カトリック教徒に対し、そしてカラヴァッジョ作品を見るために、サン・ルイーゼ・デイ・フランチェージ聖堂を訪れた世界からの観衆に対し、400余年に渡る、誤ったヴァッジョ作品解説を謝罪しなければならない立場であることは明らかだ。

対抗宗教改革の運動下にあった16-17世紀のローマにあって、画家カラヴァッジョが、当時のカトリック教会へ貢献した画業に対する感謝の念が、現在のカトリック教会にも存在するのであれば、2024年現在における、17世紀美術史家ベッローリ由来の誤った公開解説を決して放置はできないであろう。

参考：(眼鏡の聖マタイ：2013) より
カラヴァッジョの画面構想



- 1) 親指を胸に当てる髭男の動作「私をお探しですか」の瞬間
- 2) 人差し指の動作「それとも、隣のメガネの収税人ですか」の瞬間
- 3) イエスの開いた左手による質問受容動作【答えよう】の瞬間
- 4) 右足の一步左側への位置移動の完結した瞬間
その意味は【メガネの収税人の顔が見える位置への視点移動】
- 5) イエスの右腕・手首の回転動作の完結した瞬間
【手首より先に力無し・指差し動作では無い。召命対象者の顔付近でイエスの回された手は止まる。】「向こう側の眼鏡の人だ。」の意味
この場面でイエスは言う。「私に従いなさい。」

イエスに呼ばれた老収税人(聖マタイ)は、机に寄りかかった姿勢から、立ち上がり、イエスに従った。

加えて、鳥瞰図でこの場面を、再度見てみよう。

(上からの簡略な位置関係図)

